

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>齊藤市長におかれては、厳しい財政状況の中、ここで初めて通年予算を編成され、新たな施策や事業に取り組もうとされています。</p> <p>鶴ヶ島市では、これまで様々な施策や事業に取り組んできました。既に役割を終えた事業もある一方、さらに磨きをかけて、地域の力や市民の力を高めていくことができる事業もあろうかと思えます。</p> <p>「まちづくりは人づくりではなく、人づくりがまちづくり」という視点、経費をかけずに課題解決につなげていく視点から、以下の質問をいたします。</p> <p>1 ラジオ体操の更なる推進について（20分）</p> <p>本市では、健康増進を図る観点から多年にわたってラジオ体操に力を注いできています。また、NHKのラジオ体操関係者にも来訪していただき、「ラジオ体操教室」を通じて指導を受ける機会の充実も図ってきているものと認識しています。</p> <p>実際、市内では、11地区25会場で、ほぼ毎朝、ラジオ体操が開催されていると、市ホームページに掲載されています（平成29年4月現在）。</p> <p>また、市では、健康管理のため事業所全体でラジオ体操に取り組む「ラジオ体操実施事業所」を募集しており、市ホームページ（平成27年7月24日現在）によりますと、9社が登録されています。</p> <p>対象事業所の条件は、ホームページをみますと、「5人以上でラジオ体操に取り組む事業所」「週に1回以上、ラジオ体操を実施している事業所」「従業員等にラジオ体操を普及していきたい事業所」となっており、実施事業所として登録していただいた事業所には、「ラジオ体操実施事業所ステッカー」「ラジオ体操音楽CD」を配布しているようです。</p> <p>そこで、市民の健康増進を図るラジオ体操について、以下の質問をいたします。</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>(1) この5年間の市内におけるラジオ体操の普及状況について (地域における会場数や参加人数、実施事業所数等の推移は。)</p> <p>(2) 各小・中学校のラジオ体操の実践状況について</p> <p>(3) 必要な支援について</p> <p>(4) 「ラジオ体操フェスタ2017 in 川越」イベントの開催について</p> <p>(5) 今後のラジオ体操の方向性と課題について</p> <p>2 認知症サポーターの養成について (20分)</p> <p>認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り、できる範囲で手助けする人のことです。</p> <p>国が発表した「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」では、2025年(平成37年)の認知症高齢者数は約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると推計され、取組のひとつとして、認知症サポーターの養成を進めることが掲げられています。</p> <p>本市では、多年にわたり、サポーターの養成に努めてきているものと認識しています。認知症サポーターは、先ほど申したような趣旨をもって活動を行うことが期待されていますが、私は、認知症サポーターの養成は、「福祉の心をもった人を増やしていくこと」でもあると考えています。</p> <p>本市の高齢化率は、平成29年2月には26%を超え、現在策定中の「鶴ヶ島市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画」では、平成32年度の高齢化率は29%近くになるものと推計しています。</p> <p>このため、地域に多くの福祉の理解者を増やしていくことはますます重要なこととなります。</p> <p>そこで、認知症サポーターの養成について、以下の質問をいたします。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>(1) ここ3年間の認知症サポーターの養成状況について(講座開催回数、サポーター養成人数、メイト数、総人口に占めるメイト・サポーターの割合などの推移は。)</p> <p>(2) 児童・生徒を対象とした認知症サポーター養成講座の開催について</p> <p>(3) 認知症サポーターに期待することについて</p> <p>(4) 今後の認知症サポーターの養成の方向性と課題について</p>	